



大久野新井地区にある白山神社は水口地区の山神社、坂本地区の神明社と並び町内で最も古い神社のひとつです。加賀国石川郡（現在の石川県）の白山比咩神社（しらやまひめじんじゃ）を総本社とし、約1200年前に現山崎宮司の始祖が創建したといわれています。現在の本殿は総ケヤキ造りで嘉永3年(1850)に建て直されました。一枚板で作られた扉はとても見事で、ケヤキの年輪がきれいな模様となって現れています。



浦安の舞は、昭和15年(1940)に皇紀2600年※を記念し全国の神社で行われた奉祝臨時祭で舞う神楽舞として考案されました。題名の浦安とは、心中の平穏をあらわし、国の平穏無事を祈る舞とされています。

昭和8年(1933)に昭和天皇が詠んだ和歌「天地の 神にぞ祈る 朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を」が、神楽の音色に合わせて歌われます。舞の構成は、複数の舞姫による女舞となっています。

白山神社では、毎年9月に行われる祭礼の本祭で披露されます。舞はその年の小学校6年生の少女たちが演じ、2回披露されます。1回目は神事が終わった後に、本殿向かいにある神楽殿で奉納されます。2回目は下山した後に、午後、神輿渡御を行う前に萱窪地区の会館で行われます。

白山神社

※皇紀 … 明治政府が定めた独自の紀元で、神武天皇が即位したとされる西暦紀元前660年を元年としています。戦前までは一般的に使われていました。